

就労支援部会ワーキンググループ 議事録

10月29 日(水)		bグループ			
進行	吉田	発表	富田	記録	事務局 内山
ワーキングルール		・進行、発表者を決める。 ・意見は簡潔に述べ、平等に発言の機会があるようにする。 ・特定の機関、立場を否定する発言はしない。			
・反応が返ってこない人の評価が難しい。昔から関わっている人の意見は参考にできないのか。いろいろな他機関の支援員、とくに放デイの支援員の話聞いてみたい。					
・家族は制度上の必要性から支援に関与しているが、第三者的な立場で関わっているケースも多い。始まったばかりの制度なので仕方ない部分はある。					
・B 型が難しく、生活介護という人もいる。					
・サービスを決めるのが目的ではなく、本人の希望や理解度に応じた支援が必要かアセスメントが重要と考える。					
・精神の方は理解が出来ないわけではなく、理解の方法に課題がある。医師などに相談してもらえれば特性や弱い部分はお伝えできると思う。					
・病院側も把握してないことはたくさんあるので、支援者が診察に同行することで、本人の実態を医師に伝えることはできる。診察時間が短いため、事前に長めの時間を設定するよう病院に依頼することが望ましい。精神科への抵抗がある本人もいるため、診断書取得時の同行が重要。					
・聴覚・視覚特性により、納得しないと次のステップに進めない人もいる。自己評価が有効な場合もある。					
・就労でステップアップし、一般就労に移行後、支援が途切れてしまい孤立するケースがある。崩れた時の支援体制が問題になっていると感じる。誰も支援者がいなくなって突然病院に来る方が多い。分かる範囲で相談員や委託相談に返したりしている。					
・多機関連携は重要と思う。知的障害・精神障害それぞれに適した支援方法の理解が必要。勉強会や研修を通じて支援の質を高めることが求められている。					
・事業所は医療の情報はほとんど入らない。個人情報などに少し書いてある程度。事業所の支援者も受診同行できるような仕組み(報酬や加算等)があれば、質の向上につながると思う。					
次回	月	日( )	14:00～	進行	発表